

第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和4年(2022年)7月19日(火) 19:00~20:30

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 出席委員 11人

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	教職員課	課長	平石	拓
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	支援教育課	課長	小谷	亜弓
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	武田	裕史

大津行政センター 館長 望月 正彦(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 櫻井 聡

5 傍聴者 11名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

《 各委員から異議なしの声 》

○飯田教育政策課長（事務局）

地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、本協議会の開催に当たりましては、半数以上の委員の出席が必要となります。

本日は、委員11名中、10名の出席いただいておりますので、本協議会につきましては成立していることを報告させていただきます。

なお本日は前回ご欠席していた委員と、今回新たにご出席いただいている委員がいらっしゃいますので、ご紹介いたします。

《 委員あいさつ 》

ありがとうございました。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。委員長よろしくお祈いします。

（委員長）

それでは次第の1「第1回協議会での整理について」で、事務局から説明をお願いします。

《 資料1「第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会資料」の1～6ページについて事務局から説明 》

（委員長）

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手をお願いします。

（委員）

県営走水団地や防衛大学校に関する情報をありがとうございました。

可能であれば、以前あったと思われる海上自衛隊の跡地や、京急観音崎ホテルの横にある宿舎の関係等、跡地利用についての情報を頂きたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

それらの情報については、確認させていただきたいと思います。

(委員)

現在、定住促進施策として行っている子育てファミリー等応援住宅バンクについて検索し、27件出てきましたが、売れているのはどれくらいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

その件につきましても、確認します。

(委員)

学校の統合前後に関するアンケートでは、全体的には「慣れた」、「増えて良かった」が多数ということですが、その中でも、少人数の学校の方が、そうでない学校と比べて「不安に感じる」、「増えない方が良かった」の感想を持った保護者と児童が多いと思いました。

そこで、当時のアンケートの中で気になった点など、具体的なコメントが記録として残っていれば、参考に教えていただきたいと思います。

(委員長)

この件についても、よろしくお願いします。

(委員)

今出ているアンケートは統合後のものですが、統合前にアンケートをとった実績はありますか。また、統合前提という形になってしまうのかもしれませんが、馬堀小学校と走水小学校の統合について、児童や保護者を対象にこのようなアンケートを行う可能性はありますか。

○古谷教育総務部長（事務局）

今回の検討対象校に対するアンケートの予定の有無に関し、現時点では、こうした協議会を開き、さまざまな課題や心配な点などのご意見を聞きながら進めていきたいと考えています。単に統合するという意見が少ないから統合しない、というようなことではないと思っています。より丁寧にご意見を拾っていくことが大切であると考えています。

(委員)

資料に記載されている定住促進施策について、1、2番目にある施策は、2012年まで打ち切った施策ですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

その通りです。現在実施している事業ではありません。

（委員）

具体的な利用人数及び走水地区の内訳を明示していただけますか。

○飯田教育政策課長（事務局）

可能な限りお調べしますが、古い事業のため、実績の中で走水地区というくくりはできないと思います。

（委員）

資料の後方に、馬堀小学校と走水小学校の距離が記載されていますが、光洋小学校と鴨居小学校の距離はどうですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

正確なものは手元にありませんが、約2 km以内であると思います。基本的には同じ学区でしたので、少なくとも3 kmまではいきません。

（委員）

光洋小学校はかもめ団地のそばという立地条件だったと思いますが、それで正しいでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

その通りです。元々は鴨居小学校のみでしたが、かもめ団地をはじめ戸数が多くなったことを受けて光洋小学校ができました。最終的には、光洋小学校の児童数が少なくなってきたので統合しました。

（委員）

次回で構いませんが、例えば桜小学校と鶴久保小学校といったように、距離感がどのように広がったかについては、距離だけでなく地形等さまざまな要素もあると思いますし、その点を知らせてもらえると話し合いがしやすいと思います。

（委員）

今回の資料を見て気になった点として、小学校が統合された後の地域はどこも廃れていくのを実感しています。

走水の官舎から馬堀小学校までは3 kmで、何とか歩ける距離ですが、小学校1年生

の子どもとしては、急峻な坂道があるようなところなので、もし選択が可能であれば、走水を避けて別のところに住むか、あるいは自費で子どもの教育環境を整えるという選択肢も増えてきます。これにより、走水地区が廃れていくと思います。統合した後には何か手当などがあるのかどうか。それもないのに、人数が少なくなったから統合するということだと、該当する地区の人たちにとって何もメリットがありませんし、なかなか受け入れにくいと思います。

児童人数やお金の問題で統合というのも一つのロジックですが、統合後にこうした地域が廃れていくことについて、行政として覚悟しているのかどうか、手当のことも含め、市長やそれなりの役職の方の意見や見解を聞かせてもらえると、私たちの審議もより意見が活発になってくると思っています。

○大堀教育政策課主査（事務局）

統合した学校について、現状少なくなっているということですが、全市的に学校の小規模化が進んでいる現状ですので、統合が理由であるということは、一概には判断できないところです。

地域が廃れることについては、行政で放置するわけではありません。ただ、現状として、地域の子どもの減少による地域活動の参加者の減少、高齢化等で町内活動を行う人の減少と後継者不足の状況の中で、新たな地域の範囲についての考え方もあるのではないかと思います。

通学や手当については、協議会の場でご意見を伺っていますので、何が課題になるか、この場所にこのような心配があり、どのような対策が考えられるかについて、委員の皆さまからご意見を頂ければと思います。

（委員長）

全体の事例についてはよろしいでしょうか。

それでは、次に次第の2「教育環境整備の検討について」で、事務局から説明をお願いします。

≪ 資料1「第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会資料」の8～13ページについて事務局から説明 ≫

（委員）

通学区のシミュレーションの距離というのは、直線距離ではなく実際の通学距離ということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

実際の通学距離です。直線距離ではありません。

（委員）

つまり、この通学距離というのは、おおよそ歩道があるところを想定したものということですかね。

私は走水に住んでおり、距離だけで徒歩何分か分からなかったのですが、先日、ほぼこのシミュレーションに出てくる歩道を、実際にゆっくり歩いてみました。

スタート地点が県営団地のどこか不明でしたので、公園のあるところからスタートしたところ、走水神社までは10分、走水小学校の入口までは20分でした。子どもの足だと徒歩25分くらいだと感じました。

そして、そこから馬堀小学校の入口まで行きましたが、途中で坂もありましたので、結果的に50分かかりました。坂以外にも、雨や強風の日など、天候にも左右されれば、1時間はかかるだろうと感じました。

また、大津行政センターまでは、道が平坦でしたので徒歩30分でした。距離だけでは分からない部分もあると感じました。

○大堀教育政策課主査（事務局）

距離だけでは測れない点があることは認識していますし、実際に歩くとだいたいそれくらいの時間になることは把握しています。

加えて、カーブがある地点の自動車のスピード、人通り等の心配もありますので、地域の皆さまから、心配な点などのご意見を頂き、対応策についてもご意見を頂きたいと思っています。

（委員）

さまざまな対策が考えられるかもしれませんが、今回のシミュレーションに関して言えば、通学距離の理由により、統合は反対です。

○大堀教育政策課主査（事務局）

距離が遠いこと以外に、不安に感じていることなどはありませんか。

（委員）

住宅がない場所があることと、車通りが多いことなどだと思います。

加えて、走水がランニングルートにもなっているため、ランニングしている方とぶつかってしまうのではないかと心配です。

(委員)

ちなみに、トンネルは通りますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

トンネルは通りません。横断歩道がなく渡れませんが、湯楽の里やガソリンスタンドのあたりを通るルートになります。

(委員)

馬堀中学校の通学状況についてですが、県営団地、あるいは防衛大学の官舎から通っている生徒は、ほとんどバスで来ています。1年生が2名、2年生が4名、3年生が6名おり、通学手段は全員バスでした。

(委員)

馬堀小学校でも、区域外の走水から通っている児童がおり、実際にバス通学しています。

(委員)

走水から来ている児童の内訳はどうなっていますか。

(委員)

1年生が1人、2年生が1人、5年生が2人います。来年度も走水から来る児童が入学してくるかもしれません。

(委員)

海沿いの道は風が強いです。その場合、走水小学校の入口で先生が立っていただいているのですが、その先の海沿いを歩く子どもにとって、この雨風の強さは危険ではないかと不安に感じていますし、本日も雨の日で、走水小学校から歩き、濡れて帰ってきました。今の時期は猛暑の心配もありますし、全員が子どもを迎えに行けるわけではないので、そこを長時間子どもに歩かせるのは、やはり不安です。

後は、登校中の事故への対応の部分です。今は見守り隊が声をかけていただいているのですが、伊勢町からガソリンスタンドまでのエリアには家がないので、見守り隊の皆さまに、そこまで対応していただけるのかも疑問に思います。

(委員)

バス通学について質問です。

走水地区在住の生徒は、馬堀中学校まではだいたいバスで通っていると思っていま

したが、資料の12ページで、馬堀1丁目から馬堀小学校までの距離だけを見ると、走水小学校や走水地区の水源地よりも距離があるなと思いました。馬堀中学校には、望洋小学校区から通ってきている生徒もいると思いますので、生徒によっては、徒歩の通学距離が走水小学校区から通っている生徒よりも多い子どもたちがいるのではないかと思いますが、走水小学校区の生徒たちが、中学校までバス通学を良しとする理由で何かあるのかなと思いました。

馬堀小学校と走水小学校が統合するのであれば、何らかの補助などが必要という意見が出ますので、その理由が分かれば、小学生への補助を考える上で参考になると思いますので、分かれば教えていただきたいです。

(委員)

補助ではありませんが、通学定期という形で、一般料金よりも安い料金で購入できる制度を使っているのが現状です。

(委員)

その定期代は、各家庭の自己負担だと思います。馬堀1丁目の東竹沢から来る生徒も多いので、バス通学を希望する声が出てもおかしくないと思いますが、走水地区は良くて、他の地区は不可となっている理由が気になりました。

(委員)

特に不可というわけではなく、どうしてもバス通学したいという要望があれば良いですが、馬堀小学校では、現在そのような生徒は在籍していませんので、現状としてはそうなっています。

(委員)

例えば、走水小学校あたりから通う場合も、バス通学するかどうかは各家庭の判断で、バス通学を希望する場合は、自費で通学定期を購入して通うということですね。

(委員)

そうです。

(委員)

前回の協議会に出席した際に思ったのが、協議会の最終地点が学校の統合という形になると、少し意見が言いにくいというような印象を受けたことです。

ただ、教育委員会事務局より、統合ありきではないというところと、先ほど、通学面等の不安に関しては、この協議会でご意見を頂きたいという話がありましたので、

今のような話が出やすい雰囲気になっていくと良いなと思いました。

(委員)

世界における小規模学校に関して、インターネットで少し調べてみました。その中で、世界保健機関（以下「WHO」）によると、小学校は100人以下が望ましいとする勧告をしている記事を見つけました。むしろ、大規模学校は日本とアメリカくらいで数は少なく、その勧告を受けているからかは分かりませんが、諸外国は小規模学校の方に向かっているように思いました。

さらに調べると、コールマン報告とグラススミス曲線というものがあり、学校や学級についても、それぞれその規模が小さいほど、教育効果が高まることを実証した報告も論文という形で出ていました。

教育はさまざまな側面がありますので、統廃合について、どれが正しいかは分かりませんが、地域の方々からすれば、小学校は重要なポジションを占めていることは間違いないと思います。ちなみに、走水の人8割が走水小学校の校歌を歌えると思いますし、それくらい地域に根付いている小学校であると感じています。

(委員)

今のお話を受けて、伝えたいことがあります。

知り合いのお母さんの子どもは、人数の多い小学校に通うのが辛いということで、長らく不登校になっていました。そこで市と相談し、横須賀にある小規模学校を紹介してもらったところ、この人数なら大丈夫かも、ということがありました。

もちろん、少人数によるマイナス面を感じる方もいるとは思いますが、中にはそうした環境を必要とする子どももいることを、この場でお伝えしたいです。

(委員)

先ほど質問が出た、馬堀町1丁目の2.1kmの件ですが、約10年前は徒歩で通い、雨の日だけバスで通うという形でした。今の子どもは、遠いところについては、幼稚園の頃からの友達がいる大津小学校へ行ってしまいう形ですので、そこから馬堀小学校へ行く子どもが少なくなっている現状だと思います。

ちなみに、馬堀町2丁目の人は基本的には歩き、よほどの雨の場合はバスで通っているように思いました。

(委員長)

今のお話で、まさに私が馬堀1丁目の2.1kmの地域に住んでいます。

私はずっと徒歩で通ってしまして、自分の子どももそうでしたし、40分くらいかかっていたと思うので、夏は大変でした。

(委員)

官舎の方でも、学校が遠くなれば走水を選ばなくなる方が多くなると思いますし、現にそのように考えている方もいらっしゃると思いました。子どもの成長を考えても、徒歩で通える距離というのは重要だと思いますし、バス通学になると、その点で少し不安に感じます。

次に、地域との関わりについて、少子化だけが理由ではないと思いますが、それで学校を統合するとなると、その地域の過疎化にも繋がっています。そして、今多く住まれている高齢者が、今後走水から出ていけなくなったときに、これから長く住み続けるつもりでいる身として、30～40年後の走水の姿はどうなるのかと思いますし、現に、バーベキュー地にするような形で山を削っているのを見ていると、実際に走水に住む人はほんの何割かになるのかなと、不安に感じます。

また、市が走水についてどのように考えているのかが気になります。定住促進施策についても、走水については触れられていなくて、あっても古めのものという状況です。これで、果たして若い世代が走水を選ぶのでしょうか。

今回は学校の統合の話ですが、統合だけではなく地域の問題になると思いますので、これについては県、市、地域と同時進行で話し合いをするべきだと思います。

また、走水の子どもたちは、自然の中で、走水の海をきれいにしてから水泳を行う「海浜水泳」があると聞いて、とても良い取り組みだと思いました。その他にも、走水神社の境内の落ち葉拾いといったことも行われていたと聞き、そうした学びも大事だと思います。大人数での教育もメリットはあると思いますが、少人数でもメリットはたくさんあるので、この走水小学校を、横須賀全体ないし県外へアピールし、それをきっかけに走水に住みたいと思わせるような場があっても良いと思いました。

現在、走水小学校に通っている子どもたちは、今が当たり前だと思っています。ただ、自分が小学校に学んできたものなど、それ以外のことがこの走水小学校には多く、それを学ぶ子どもたちに、それが当たり前ではないことを教えたり、気づかせたいと思います。今あるものを見つめなおし、再発見していくことで、走水もまた変わっていくのではないかと思います。

(委員)

今のご意見に同感です。町内を運営する身として、強く責任を感じるところです。

話は変わりますが、先日の参議院選挙で投票所に行ったときに、結構な数の若いご夫婦と未就学児の子どもがいて、だいたい30～40人くらいはいたと思いますので、走水もまだまだ捨てたものではないと感じました。今後、現在の在籍人数、若しくはそれ以上の人数が、走水小学校に来る可能性もあるのかなと思っています。

また、前回の協議会でも教育的な資源が多くあり、走水小学校は大変素晴らしい学校という言葉頂きました。そして、先ほどの海浜水泳についても、先生方の指導も

当然あると思いますが、かなり恵まれた環境で勉強しているなど感じました。

(委員)

学校では今、学校運営協議会をはじめ各会議でご意見を頂いているところですが、その中で、小規模特認校制度についての市の見解と、県で行われている複式学級解除措置としての教員の加配がなくなる基準の2点について教えていただきたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

1点目の小規模特認校制度については、事前に配布している「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」の方策の一つとして載せているものです。ただ、本制度は、全市的に募集をかける形ですので、学区が相当に広がってしまう課題もあります。その点も併せてご認識いただければと思います。

○平石教職員課長（事務局）

2点目の複式学級については、教職員の加配があり、6学級で運営しています。ただ、実際には4学級という扱いになります。

連続する2学年のうち、例えば、現在の走水小学校の3年生が9名、4年生が5名の合計14名ですが、16名以下だと複式学級となります。また、1年生が3名、2年生が5名の合計8名、1年生が絡むと、合計8名以下で複式学級になるということで、実際は4学級ですが、加配措置により教職員を置いています。ただ、1学年で1名となると、その加配措置もとれなくなり、複式学級になるという現状があります。

(委員)

前回の協議会で出たレッドゾーンは、どこが決めたものですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

土砂災害防止対策の法律により決まっているもので、神奈川県が調査により指定しています。

(委員)

予算の関係もあると思いますが、それは何らかの工事等により、レッドゾーンの解消の方策をとっていただける可能性はあるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

レッドゾーンの指定により、直ちに何かをしなければならぬということではありません。

ちなみに、レッドゾーンに指定されると、開発の際に、特定の開発行為に関して県から許可が必要になるということと、新築や改築の際の構造規制の事項など、宅地建物取引における重要事項説明書に掲載する義務が発生するということがあります。

(委員)

レッドゾーンの区域が走水小学校にかかっているというのは、絶対条件ではないと解釈してよろしいでしょうか。

○大堀教育政策課主査(事務局)

具体的に何の条件かは分かりかねますが、レッドゾーンとして指定されている事実があります。

(委員)

会の冒頭で質問した、市で事前にアンケートを取ったことがあるかどうかについてですが、地域で自主的にやることは構いませんか。

○大堀教育政策課主査(事務局)

皆さまがそれぞれ所属されているところにおいて、アンケート等で意見を集約していただくことは構いませんし、各所属にて集約したものをもとに、本協議会で議論していただければ幸いです。

(委員)

防衛大学校についても、そこに勤めている方や官舎を利用されている方もいらっしゃるでしょうが、小学校が歩いて通えるところになかなかない。そして、そういうところを敬遠し、防衛大学校がなくなるとまではいかないにしても、地域のこともいろいろ考慮しなければいけないと思いました。

また、複式学級に関しても、悪い面ばかりではないと思いました。1回目の協議会の資料で、大規模校や小規模校における、それぞれのメリットやデメリットを挙げていただき、その中で小規模校のデメリットに切磋琢磨ができないというのがありました。あまりピンと来なかったもので、自分が子どもの頃について少し考えてみました。

私自身は、同級生の中で切磋琢磨をした実感はなく、お兄さんたちに追いつこうというように思っていたので、同じ環境でなければ、切磋琢磨は生まれないということはないと思いました。あくまで一例ですが、全てがその事項に当てはまるわけではないのかなと思います。

(委員)

今回の資料を読んだときに、県営団地が建て替え予定となっていましたので、走水地域の検討については、建て替えが終わり、走水の環境が変わってからも良いと思いました。

また、走水小学校は、確かに同学年の人数は少ないですが、違う学年の子どもたちが集まり、先生も一緒になってドッジボールをしています、その中でいろいろな感情が生まれると思います。小規模校のメリットとデメリットについても読みましたが、そうではないだろうなと感じていましたし、実際には子どももそうは感じていなくて、逆に良いことばかりを感じています。

地域の方の意見もありましたが、走水の子どもたちについて、一日を通してぜひ見に来ていただきたいと思いました。また、統合後の学校についても、子どもが減っているとのことですが、今後、どこまで学校を統合していくのかということと、もし、どこかで小規模校としてやっていく考えがあれば、走水小学校は残してもいいのではないかと思います。

(委員)

今は教育環境に関するお話をしていますが、統合を最優先にするのではなく、走水小学校を残す方法を検討しないのですか。

○古谷教育総務部長（事務局）

喫緊の課題として、現在の走水小学校の小規模化が著しく進んでおり、1学年が数人単位で、学校全体でも50人満たない規模の中で教育効果を上げていくためには、もう少し規模を大きくしていかないといけないと思っています。

教育委員会の基本方針としては、少なくともクラス替えができる規模が適切であると考えています。それは、子ども同士の間関係、そして先生による学校運営の面で、学校がチームとして動いていくには、その規模がなければ教員数の確保もできず、運営が難しくなる場面もあると思っています。

加えて、学年の中での切磋琢磨についても、日中の教育活動の中で重要な点もありますので、まずは規模を確保していきたいと思っています。

また、協議会については統合ありきということではありません。例えば、他の小学校の学区の一部を走水小学校の学区に編入し、走水小学校の規模を大きくしていくことも方策として考えられ、実際に、過去にそのシミュレーションを行いました、課題として通学距離や、近隣の学校が小規模化しているという状況があります。さらに、統合後の鴨居小学校についても小規模化が進んでおり、さらに学区を切り分けるという案が考えにくい状況です。

そうした諸事情を踏まえた結果、本日お示したシミュレーションのとおり、走水

小学校を馬堀小学校に再編する方策に行き着いたということです。

(委員)

今の小規模校に関して、統合が望ましい学級数とその根拠はあるのでしょうか。

○米持学校教育部長（事務局）

明確に書かれているものはないと思います。

学級については、単学級ではなく複数の学級があれば、いろいろな人に出会える機会が増えるという教育的効果があると思いますし、中学校の教員を経験した身としてはっきり言えると思います。

人間は、他者から学んで成長します。誰かと関わっていく中で、自分で考え、生き方を決めていくことを通じ、自分を成長させていくと思います。また、1日24時間の中の8時間以上を、小学校で過ごすことになりますので、その6年間で、小さな人間関係の中で過ごすのと、ある程度の規模の人間関係の中で過ごすのでは、大きな違いがあると思いますし、教育者の一人としても、子どもたちにそうした環境を提供したいと思っています。

明確な根拠として書かれているものはありませんが、自分の経験上、そのように感じています。

(委員)

以前の国会答弁でも、学級規模についてのものがありました。やはり明確な根拠はなく、まさしく経験上の話である点で同じような感じがしました。

(委員)

教育効果についていろいろな議題が挙がっていますが、例えば、学校の規模の大小によって学力の平均やばらつきがどれくらいあるのか、そして、クラスの人数規模によって学力がどれくらい変化するのかといったデータがあれば、統合した方が良いかどうかの議論ができるのではないかと思います。そうしたデータがあれば、ぜひ提供をお願いしたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校規模ごとの学力の効果をデータでお示するということですか。

(委員)

教育効果があるということであれば、そういったデータがあればと思います。

○米持学校教育部長（事務局）

一番端的なものは、ペーパーテストの結果、全国学力学習状況調査などということになりますが、それが本当に正しく学校規模と学力差の関係を表しているかということ、私はそうではないと思います。

人間はどこで成長するか分からないもので、それは学力も一緒だと思います。例えば、小学6年生あたりから急に伸びる子どももいれば、高校生くらいから伸びてくる子どももいるので、最終的にその人間がどうなるのかは最後まで分からないと思います。そうした発展途上にある子どもの学力の状況の一点をもって良いか悪いを議論し、学校と学校とで比較することはあまり意味がないと思っていますし、子どもの成長スピードもさまざまですので、それをお示しするのは難しいと思っています。

（委員）

本件についての質問をしようと思っていたところでした。

規模のある学校の方が、小規模校よりも人数が多く切磋琢磨ができるという意見がある一方で、小規模校に通う児童の親御さんや地域の方は、先生たちが一人一人見てくれるので全体的に学力が高いという意見もあったので、それを裏付ける数値があればと思いましたが、今の回答で分かりました。

（委員）

根拠は不明ですが、走水小学校出身の子どもたちは、発言を積極的に行い、グループのリーダーになり得るケースが多いと聞きました。

その理由として、少人数の環境の中で、さまざまな役割を自ら考えてきたところが役に立っているのかなと思っていますし、逆に大規模な学校から来た子どもたちは、他の仲間に頼りがちであるともあります。要は、学校の規模という話ではないということです。

また、先生方の環境に関して言うと、他の学校でも、ノイローゼで学校を休まれている先生が多いと聞いており、教員も不足し、募集しなければいけない話になっていますが、その点、走水小学校で長期間休んでいる先生はいないのかなと思っています。走水小学校は、こうした部分のメリットがあるのだろうと思いました。

（委員）

先ほどのWHOで、生徒数が100人を上回らない規模が良いという記事を見て、詳しくは見ませんでしたし、本当の記事かも分かりませんが、先ほど話された部長の考え方と食い違いが見られましたので、その理由が知りたいと思いました。その点について調べていただき、次回教えていただければと思います。

また、コールマン報告とグラスミックス曲線の2つにおいても、それぞれ学校と学

級の規模等について述べた部分だと思いますが、この辺も少し差がありますので、併せて教えていただければと思います。

(委員長)

そろそろ終了のお時間が近づいてまいりましたが、ご意見、ご質問はよろしいでしょうか。

ここで話し合われた内容について、事務局の方でまとめていただき、次回の資料として、提示してください。

それでは、協議については、ここまでとします。

本日予定をしておりました議事を全て終了しましたが、全般的なことでご質問やご意見はございますか。

よろしいようですので、これで第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会は終了とし、進行を事務局へお返しします。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、事務局から連絡事項についてご説明します。

本日の会議録についてです。確認用の会議録が作成できましたら、お送りします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに、事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開します。

次回の開催予定ですが、この場にて、皆さまのご都合を確認したいと思います。

◀ 次回の開催日の確認 ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、次回は、10月14日（金）19時から大津コミュニティセンターにて開催します。開催通知は後日、お送りします。

よろしくをお願いします。

スケジュールについて、ご質問がありましたら、挙手をお願いします。

ご質問等がないことを確認しました。

委員長、委員の皆さま、ご協議ありがとうございました。

以上で第2回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。

以上